

災害時の避難のために

三 木 勝*

2004年10月23日に中越地震が発生した後、学内での避難訓練、防災対策についての問合せが、幾つか寄せられた。防火管理者としては、集団の防災訓練や防災設備の点検・充実の必要を改めて感じさせられたが、同時に問い合わせしてくる方々の考え方の中に、幾つかの問題点を感じた。今回の第2回環境セミナーでは、佐倉キャンパスの防火管理者として話す機会を頂いたので、私が感じた問題点を中心に話させて頂いた。

避難訓練と心構え

災害発生時において、災害遭遇者であるが動ける場合には、自分の身は自分で守るという考えを普段から持ち、それに応じた対応策を自分なりに考えておくことは、防災対策の一つとして大切である。

今回、避難訓練についての相談を受けた時、相談者の中に訓練が行われることを待っているような態度を感じさせられることがあった。また、「訓練さえ受ければ、避難対応能力が身に付く」という姿勢を感じさせられることもあった。「天は自ら助ける者を助ける」と言う格言があるが、これは避難対応時にも言える。

もちろん、このことは避難訓練や集団による訓練の必要性を否定するものではなく、防災・避難には個人責任の領域と集団責任の領域があると言

うことである。

個人責任の領域

災害に備えて身に付けておくこと

災害時には、日常ではあまり意識していないものが役に立つ。カッターナイフやラジオなどの簡単な道具から、日頃収集したちょっとした知識などがいざという時に頼りになる。

さらに、小さなカッターナイフを普段から身に付け、災害時の様々な状況を想定して、「どのような時に、どうやってこれを使おうか」と考えることは、日常的に災害を意識して生活することになる。避難後は前向きな性格、笑いをもたらす言動なども大切であるので、このような想定訓練を個々で時折行うのも良いことである。

災害時の自己完結的な対応策を

許される範囲内で、常に自己完結的であることが大切である。自己完結とは、自分でできるとできないことの区別をすることが、出発点となる。自分でできることは自分で積極的に対応することが、防災・避難時の適切な対応に通じる。災害対策用備品の準備も大切であるが、「こういう場合は、この様に行動しよう」という行動シナリオを作っておくことも、準備の一つと言える。

建物の施設・設備についての認識

建築物は、防災建築設計や防災都市計画に基づいて建てられている。これらの基準で建築することは、建設施行側の責任である。しかし、これらの施設・設備を防災・避災に活かすのは、ユーザー側の責任である。どこに非常口があるのか、脱出のための緩降器や消火のための消火栓、消火器の位置を知っておくことは、ユーザーの責任である。そして、ユーザーにその位置を周知させることが防火管理者の責務である。これらの位置をユーザーに認識してもらうためにも防災訓練がある。

長い建物だと通路突き当たりの両方に非常口がある。万一、片方にしか非常口がない場合は、その反対側には必ず緩降器がある。緩降器は色々な種類のものがあるが、そのうちの一つぐらいは利用の体験をしておいて欲しい。その経験が、災害に遭遇した時、大きな力となる。

集団責任の領域

訓練の大切さ

防災・避災については、体で覚えることが大切である。消火器を持ってその重さやホースの向け方を体験しておくだけでも、いざ使うときには、その体験が有効となる。体験は、余裕を生み、冷静さをもたらす。

災害の現場で、冷静に対応し適切な指示を出せる人は、災害現場での秩序の維持に役立ち、パニックなどの二次災害から人々を守る。

訓練は防火管理者のもとで計画・実行されるが、防火管理者はその訓練が何を目的にどのように行うのかを考える。訓練では、参加者に具体的に器具を使う体験してもらい、体で覚えてもらうこと

がもっとも効果的である。

訓練が集団的に行われる時、参加者個々の具体的な訓練だけでなく、集団としての一体感や仲間意識、連帯感の涵養にも繋がる。この意識は、災害時の相互援助や秩序の維持に不可欠である。

集団訓練は、このようにコミュニティー形成を促進し、群として生きる人間の存在とその必要性を改めて発見させる効果を持つ。集団意識の形成は、集団の責任である。

以上、述べたことの全てに対して、責任を負い、実現するように計画立案することが、防火管理者の集団に対する責任である。

留学生と防災

本学は、アジアの国々から多くの留学生を迎え入れている。日本の都市における防災対策は、アジアの他地域よりも先に都市化されているため、進んでいると言える。このため、これから都市化がさらに進んでいくアジアの諸地域で、日本の防災知識を活かす機会が増えるであろう。このことを意識して、留学生に防災意識や知識を伝達していくことも、大切と思われる。

* 敬愛大学国際学部事務部次長・佐倉キャンパス防火管理者

